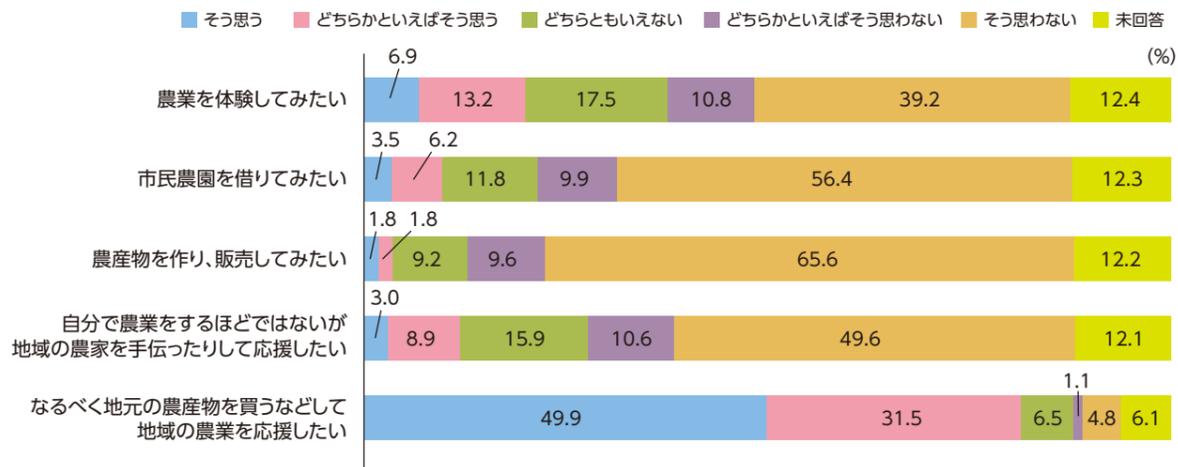
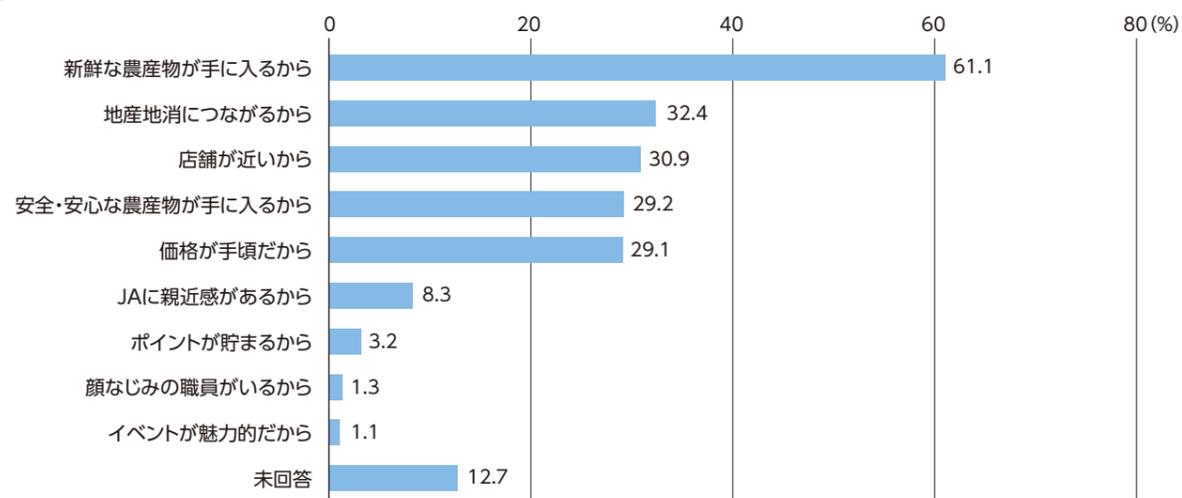


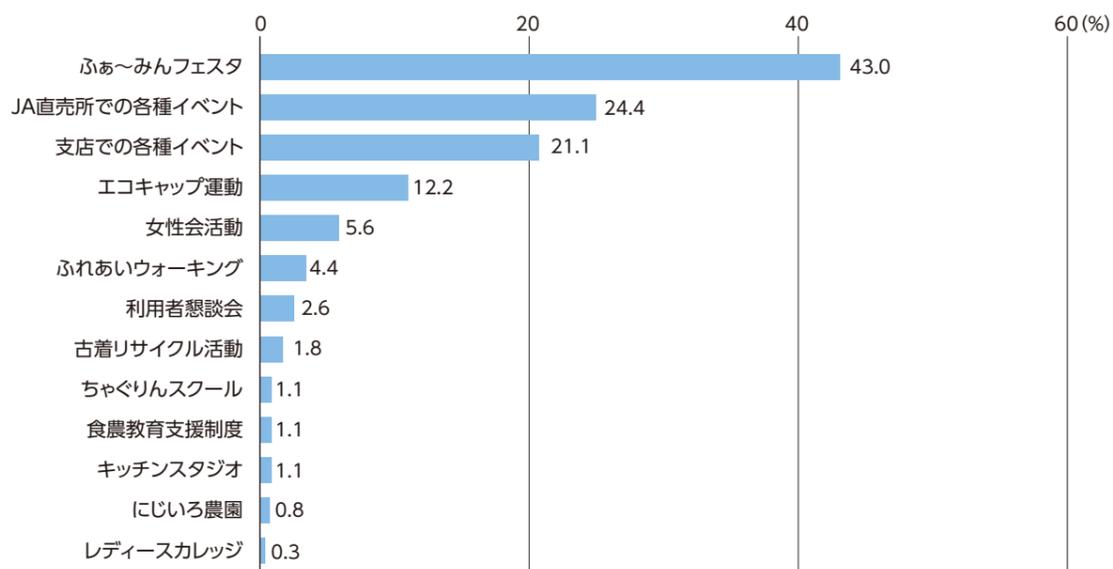
4. 農業への関わり方の意向について(准組合員)



5. JAの直売所を利用する理由について



6. 活動の参加状況



JA自己改革の実践に向けて

— 組合員アンケートと担い手農家懇談会のご報告 —

JA兵庫南では、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として「持続可能な農業」と「豊かで暮らしやすい地域社会」を実現するため、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つを基本目標として掲げ、総合事業を堅持しながら「自己改革」に取り組んでまいります。

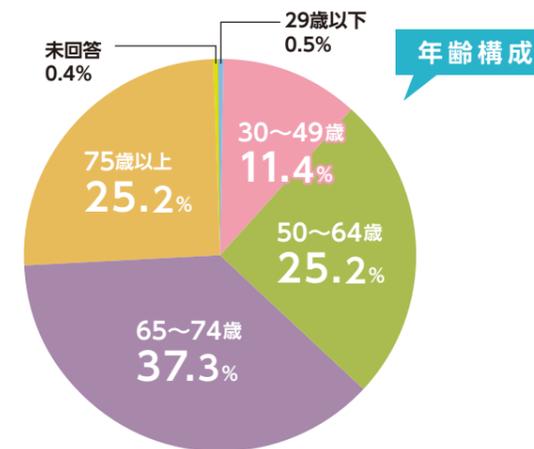
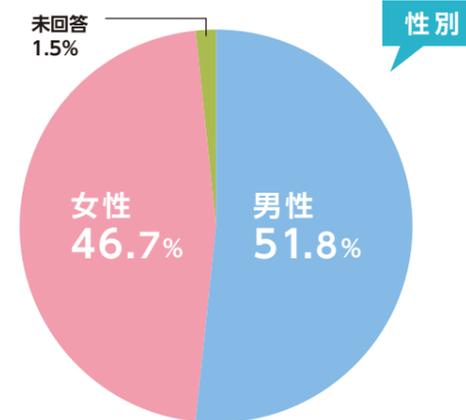
組合員アンケートの結果について

JA兵庫南では、より地域と一体となったJAであることを目指して、組合員の皆さまにアンケート調査を実施させていただきました。

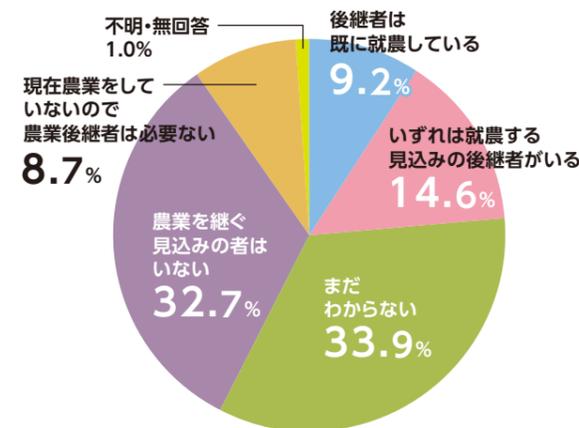
調査概要

実施方法と対象者：職員による手配布、郵送での回収。
 正組合員1,000名、准組合員2,030名を対象。
 実施期間：平成28年12月15日～29年1月31日
 回答数：正組合員611名、准組合員970名
 ※小数点第2位を四捨五入しています

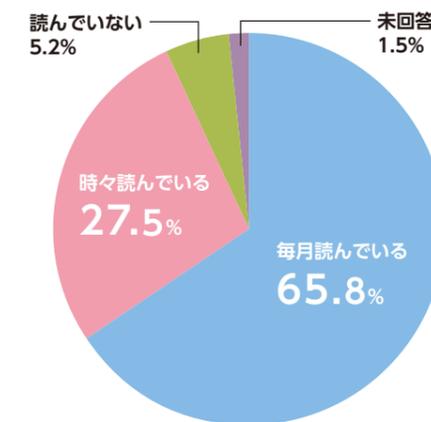
1. 調査回答状況



2. 農業後継者の状況(正組合員)



3. 広報誌「ふぁ～みん」をよく読みますか



担い手農家懇談会での意見交換について

平成28年4月1日に農業協同組合法が改正されるなど政府主導の農協改革が進められる中、JAグループ自ら「JA自己改革」に取り組んでいます。そこで、JA自己改革の取り組み等を進めるため、担い手農家の皆さんとの懇談会を開催し、JA事業へのご意見を伺いました。

開催概要

会議日程：8月17日、23日、31日

参加者：野菜・水稲関係認定農業者、作目部会代表者、営農組合代表者、ふぁ～みんSHOP代表者計106人

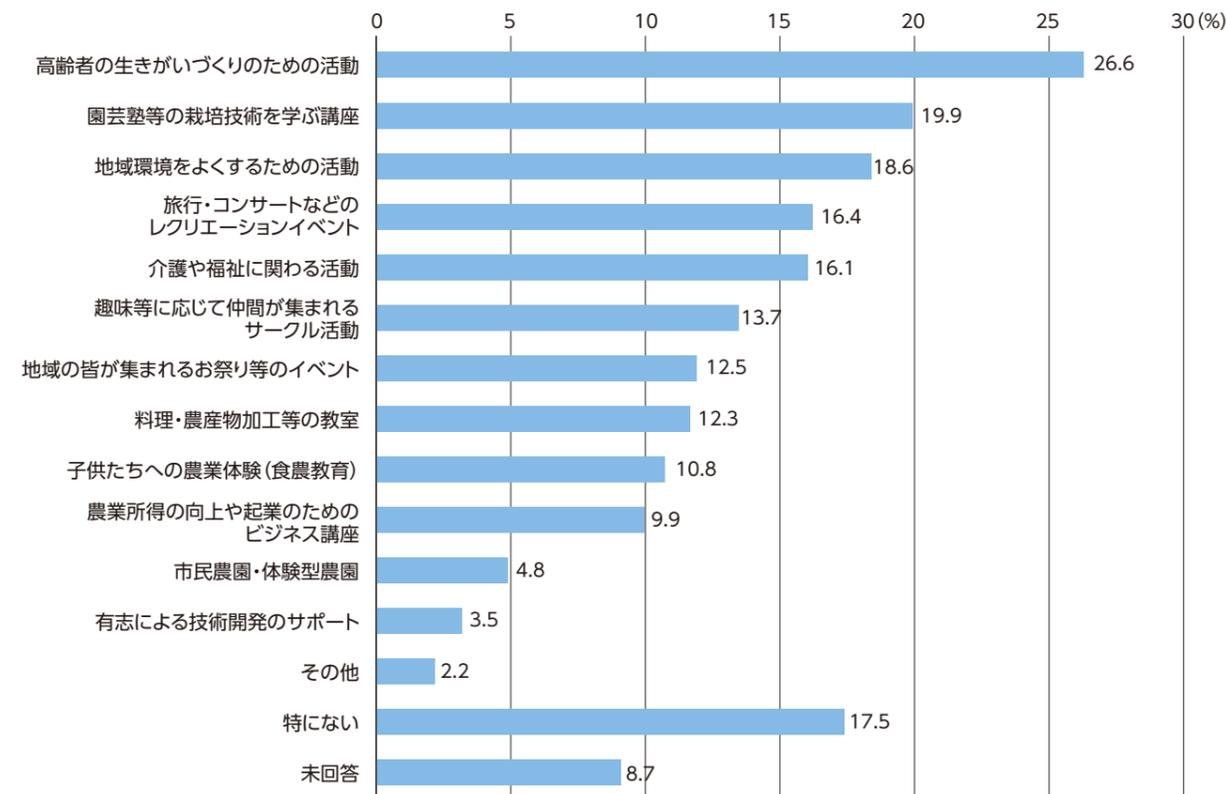
JA出席者：常勤役員、営農経済部長、総務部長、企画課長、直売課長、営農経済センター長、WGメンバー、JA兵庫中央会経営指導部、JA全農兵庫

1. 農業者の所得向上

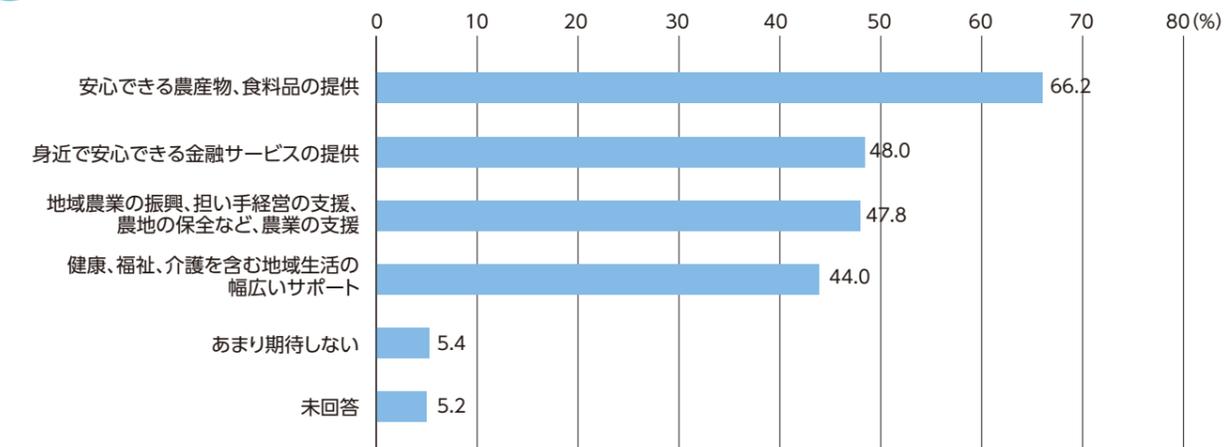


テーマ	出席者からの意見	JAからの回答
コスト削減	生産資材の価格について、経済連、JAがマージンを取りすぎるから価格が高くなっているのではないかと。	生産資材の価格について近隣のホームセンターを対象に価格調査を実施しています。一部の品目にJAの方が高いものがありますが、大部分の品目が安いという結果です。今後も価格動向を十分に意識しつつ、各種割引制度を活用して安く提供できるよう努めます。
	安い輸入肥料の取り扱いはあるのか。以前、1,000円くらいで売っていた肥料も取り扱って欲しい。	以前全農がヨルダンでアラジン肥料を製造していましたがヨルダンの事情で廃止されました。現在、肥料銘柄集約による低価格品を検討中です。
	生産コストの削減といっているが、何%削減とか数値で示して欲しい。	銘柄集約による効果は、品目ごとに5%～10%を目指しています。
所得アップ	営農渉外について、農業経営収支にかかる具体的な提案がない。	営農渉外については、経営についてアドバイスができるようレベルアップに努めます。
	ふぁ～みんSHOP出荷について、規格、包装等どういう出し方をすれば効果的なのか指導して欲しい。	SHOPの出荷の対象者については、できるだけ多くの方に出荷して頂きたいという思いがあり、荷造・包装についての講習会を実施したいと思います。
	スイートコーンには、本当にJAも力を入れてくれている。しかし、ブロッコリー・キャベツについては、SHOPでは、個人対応のみで部会対応ができない。専業農家の作物は品質も良いので、部会対応をして欲しい。	スイートコーンは、新たにブランド化を図るという観点から、市場出荷に併せてSHOP出荷を行いました。少量多品目を中心とした直売所農家を増やすことで地域農業の振興を図ることは重要であり、一方では専業農家を中心とした作物部会員の取り扱い向上も重要です。SHOPは多様な農家が所得向上していただくよう仕組みを検討していきます。また、消費者に支持される品揃え、品質向上にも努めます。
	ふぁ～みんSHOP出荷品の買取りはできないのか。	今のところ、その考えはありませんが、SHOPに対し午前中は品揃え豊富だが、午後からは品薄になるという傾向があります。イベント等で午後からの集客アップを目指し改善していきます。
	アンデスレッド(ジャガイモ)を契約栽培している。安定した収入を確保するため事前に価格提示して契約を結べないか。	アンデスレッドはコロケ店、複数の量販店と契約しています。栽培契約時点では全ての納品先と価格交渉ができていない場合もありますが、できるだけ早く連絡できるようにします。

7. JAに期待する活動



8. JAに期待する役割



アンケートへのご協力をいただき、ありがとうございました。
結果から、JAに対して食に対する安全・安心や高齢者の生きがいづくりへの期待が高いことが分かりました。
今後もJA兵庫南では、組合員の皆さまとともにJA自己改革に取り組んでまいります。



3. 地域の活性化

テーマ	出席者からの意見	JAからの回答
環境保全	専業農家だけでは、池や川など地域農業は維持できないので兼業農家のサポートはJAにお願いしたい。	ご意見のとおり、水利の保全などは多様な担い手である兼業農家さらには地域住民の協力なしでは成り立ちません。農業を地域全体で支えていけるよう農業理解の促進に努めていきます。
	野焼きや草刈などの環境保全について、近隣住民から苦情がでてしまい生産意欲が低下している。JAは環境保全活動に理解を深めるPRを活発にして欲しい。	環境保全に理解を深めてもらえるようこれからもPR活動や食農教育を行っていきます。
	明石市の都市農業の問題について、JAからもっと要望して欲しい。	明石市長に嘆願書を提出予定です。次回には、何らかの報告ができると思います。
執行体制	理事のあり方について、部会長の枠を設けて欲しい。	地域密着を目指すJAとしては、それぞれの地域から選出される人選を重視しますので、部会枠等の設置は考えていません。
	理事の報酬が高すぎる。総代数も多すぎる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 理事の報酬については、経営規模から見ても決して高すぎるとは考えていません。 ● 総代数については、農協法第48条第3項において、組合員2,500人を超える農協においては500人以上とすることが定められており、現行の総代数557人が多いとは考えておりません。なお、総代の役割は組合の運営に関して積極的に意見を提言することなどを明記した「総代選出についての申合せ事項」を平成29年10月に策定しました。
	改正農協法の対応について、役員選出方法は今までのままでよいのか。	改正農協法に対応して役員選出要領を変更していますが、今までの選出方法によっても法律上の要件(認定農業者等や実践的能力者等が過半数を占める)を満たしており、従来どおりの選出方法でよいと考えています。
今後の取り組み	今日の結果の報告はいつになるのか。	進捗状況の報告は、半年後に実施したいと考えています。
	地域営農振興計画に限らず全事業で目標を持った取組みをしていると思う。しかし、この実績の礎は組合員の協力と先輩職員の努力の結晶の結果であることを職員にもっと教育して欲しい。	これからも職員教育に力を入れていきます。
	JA自己改革は本当に難しい課題だと思う。役員は率先して実践し相当の覚悟をもって取り組まないと成功しないと思う。	常勤役員、役員全員がその覚悟をもって取り組みます。今後ともご協力をよろしくお願いたします。

担い手農家懇談会にご参加いただいた皆さま、
本当にありがとうございました。
今後も担い手農家懇談会を開催し、皆さまのご意見をもとに
役職員一丸となってJA自己改革に取り組みます。



2. 農業生産の拡大

テーマ	出席者からの意見	JAからの回答
水稲・麦・大豆	コシヒカリの栽培カレンダーが欲しい。	コシヒカリの栽培カレンダーを作成します。
	ドローンによる防除はどういう計画をしているのか。	平成30年度、水稲・麦・大豆用として導入予定です。野菜では散布できる登録農薬がないため、今後の課題です。
	きぬむすめが特Aの評価を得て評判が良い。カントリーの受入体制の問題できぬむすめの作付けができないと聞いているが、売れる米であるきぬむすめの販売について、JAはどう考えているのか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 以前に試験的にきぬむすめを施設受入しましたが、荷受時期がキヌヒカリの乾燥調製と重なり対応できないため断念した経緯があります。今後業務用、飼料用など品種が多様化することが予想され、荷受施設の効率的な受入について検討していきます。 ● 全農では、兵庫米の新ブランドきぬむすめの販売拡大を進めておりPRキャラクターきぬこちゃんを使って宣伝しています。なお、キヌヒカリもお客様から評価されており売れにくい状況ではありません。(全農)
	平成30年問題(コメの生産調整廃止)として、米の生産数量目標がなくなり単価が下がるのではないかと懸念している。営農組合として米一本では、やっていけないので、対策として、麦の作付けを考えている。しかしながら、生産コストを考えると交付金が下がった場合、非常に苦しい状態となる。やはり、少しでも高く販売して欲しい。	麦の価格については、民間流通連絡協議会の入札制度により決定されています。兵庫県産麦をPRしてできるだけ有利な価格となるよう努力いたします(全農)
	平成30年問題が差迫っているなか、JA兵庫南として、具体的な方針を示して欲しい。	平成30年問題については、全農とJAでプロジェクトチームを発足させ現在、対応を協議中です。
野菜	転作作物として、飼料米の作付けに取り組まないのか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 飼料米について、JA兵庫南は養鶏農家との契約で粉での取り扱いをしています。作付け拡大する場合は玄米での取り扱いも可能ですので、事前にご相談ください。 ● また酪農家との間ではWCS(ホールクローブサイレージ)栽培契約を行っており、作付け希望の場合は事前にご相談ください。
	JAはふぁ～みんSHOPの位置づけをどのように考えているのか。	JA自己改革では農業の振興と地域の暮らしの向上を目指します。直売所は農家の所得向上、地域への安心・安全農産物を提供できる事業です。自己改革を進める上でも重要な事業として位置づけています。
	<ul style="list-style-type: none"> ● レンタル農機にどのような機種があるのか、また、どこにあるのかSHOPやセンターに掲示して欲しい。 ● 耕作地が狭いので、小型農機のレンタルもしてほしい。私の周囲にも定年退職して本格的に農業に取り組もうとしている人があり、小型機械のレンタルがあれば60代以降の就農・規模拡大にもつながるのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ● レンタル農機については、SHOPや営農経済センターに掲示するなどして周知に努めます。平成29年度は、タマネギの作付面積拡大に繋げるため収穫機等を新たに導入しました。 ● 小型農機のレンタルについては、使用頻度や管理方法の課題があり実施しておりません。ご要望が多くあるものについて検討いたします。
担い手	稲美地区は新たな担い手が育っているが、他の地域でも新たな担い手が育つよう力を入れて欲しい。	担い手の育成については実証ハウスや果樹園等を活用して、力を注いでいきます。
	農業者の所得増大、農業生産の拡大について、若い人たちが、今後、JAと取引するかどうかの分かれ目だと思う。SHOPでの品質を高め、有利販売できる体制を確立しないと、専業農家はSHOPに出荷しなくなる。JAの知恵の出どころではないか。	高品質の農産物を1円でも高く売っていきたくて考えています。直売所、市場、契約、インショップに加え、若い農家にも魅力のある新たな販路の開発にも前向きに取り組んでいきます。
	農作業の人手が不足している。JAが人を雇って手配して欲しい。	JAが人を抱えて派遣をするような形態は収支上も厳しく考えておりません。農作業支援の方法として(株)ふぁーみんサポート東はりまで援農ボランティアを試験的に実施しています。また、無料職業紹介事業による説明会を開催して、農作業就労者を募集し、農家に紹介していきます。